

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	熊本学園大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クモトガクエンダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	商学部 ホスピタリティ・マネジメント学科
	担当教職員名・役職	土井 文博・教授、萩原 修子・教授、波積 真理・教授、林 裕・教授、米川 清・教授、伊津野 範博・准教授、徳永 彩子・講師、教務課職員
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	54
	受入企業等数	21
受入企業等名	ザ・ニューホテル熊本、旅亭松屋本館Suizenji、株式会社JTB九州熊本支店、西鉄旅行株式会社熊本支店、株式会社日専連ツアーズ、株式会社JALスカイ九州熊本空港所、九州産業交通ホールディングス株式会社(航空)、トヨタカーロー熊本株式会社、株式会社RKKメディアプランニング、株式会社談、総合企画株式会社、有限会社ウルトラハウス、熊本県経済交流局観光物産課、公益社団法人熊本県観光連盟、宇土市民会館、公益財団法人熊本県立劇場、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、医療法人社団寿量会熊本機能病院、医療法人社団愛育会福田病院、有限会社コンセルンフェリシア、グランラセーレガロ	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学科学生の就職先として想定されるホスピタリティ産業を中心とする企業・団体等で接客、事務、企画等、実際の仕事をを行い、社会的実践力を身につける。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	12単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年次秋学期または3年次春学期に、自己能力開発科目の選択必修科目「インターンシップ」として実施している。3ヶ月の長期インターンシップを通して、実務を身につけ、また人間関係を構築することを目的としている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	

	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの心得、マナー講座、受入先に関する調査(企業研究)等、インターンシップを始める上での準備を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学生は、業務内容やインターンシップによって学んだこと等をまとめた報告書を作成する。大学は、事後学習を実施し、各自の研修報告やインターンシップ前後の仕事理解の変化、反省、振り返り学習等を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中、週1回を大学の登校日とし、学生は担当教員に日誌を見せて報告を行っている。日誌は受入先担当者にも見せ、可能であれば所見を書いていただいている。また、担当教員が受入先をインターンシップ期間中に2~3回訪問し、学生と担当者と面談を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生は、実施前には受入先に関する調査、実施中には日誌の作成、実施後には報告書の作成をし、大学は事後学習を実施することで、学生がインターンシップによって学んだことや職業意識の変化について確認を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間48日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学科学生の就職先として想定されるホスピタリティ産業を中心とする企業・団体等で48日間の長期インターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施前に担当教員と学生が受入先を訪問し、具体的なインターンシップの内容等について受入先担当者と打ち合わせを行っている。実施中は、担当教員が2~3回視察し、受入先担当者と学生と面談を行っている。実施後、受入先は大学作成の評価表を用いて学生に対する評価を行っている。また、本学にて懇談会を開催し、受入先担当者を招いてインターンシップ全般に関する意見交換を行うとともに、学生の報告書を配布している。
	7.上記①~⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	熊本学園大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	教職係長
	担当者氏名	木村 桂
	電話番号	096-364-7186
	メールアドレス	jnews@kumagaku.ac.jp